

11/19(木)「2020年度第2四半期決算 IR 電話会議」説明要旨

- 皆様、本日はありがとうございます。IRグループの石黒です。
- これより、本日発表いたしました、東京海上ホールディングスの「2020年度第2四半期決算」に係る、電話会議を始めさせていただきます。
- 決算のポイントにつきまして、ご説明いたしますので、資料の3ページをご覧ください。

【トップライン】

- 先ず、トップラインであります正味収入保険料です。
第2四半期は、前年同期比+0.1%の増収、除く為替では+4.4%の増収となりました。
- この内訳ですが、国内損保は自賠責の料率引下げの影響を主因に、前年同期比▲1.6%の減収。海外保険は、円高の影響を受けたものの、Pureグループの新規連結など成長戦略の実行や、レートアップで打ち返し、前年同期比+3.8%の増収となっています。
- 通期予想は、8月公表対比で、
国内は、火災・新種の増収を主因に、若干の上方修正、
海外も、先進国におけるレートアップを主因に、現地通貨ベースでは上方修正しています。
全体に「基調は好調」と、申し上げてよろしいかと思いますが、円ベースでは、円高の影響から▲100億円の下方修正をいたします。
- 続きまして、生命保険料ですが、
海外保険は、TMHCCが取り扱いますMSLのレートアップにより増収したものの、国内生保が、事業保険の解約増加により減収した結果、前年同期比▲3.2%の減収となりました。
- 通期予想では、8月公表対比で、国内は若干の上方修正。
海外も、円高の影響を受けるものの、TMHCCの順調なレートアップで打ち返すことから、上方修正をし、生保全体で+100億円の上方修正をしております。

【ボトムラインの実績】

- 次に、ボトムラインであります、財務会計上の「連結純利益」ですが、
第2四半期は、コロナの影響▲730億円を主因とし、前年同期比▲542億円減益の623億円となりました。
- 主要3事業につきまして、そのポイントをご説明しますと、
国内損保では、増収基調に加えまして、コロナによる事故率の低下、自然災害が対前年では減少していることにより、前年同期比+412億円の増益となっています。
次に、国内生保ですが、前期に計上しましたシステム開発費の増加の反動を主因に、前年同期比+95億円の増益となりました。
海外保険は、コロナの影響▲860億円に加えまして、今年2月に買収完了しましたPureグループの「のれん・無形固定資産の償却」が始まりましたことを主因に、前年同期比▲1,073億円となりました。

【ボトムラインの予想】

- 続いて、ボトムラインの通期予想についてご説明いたしますので、4 ページをご覧ください。
- 財務会計上の連結純利益につきましては、8 月公表対比+250 億円の上方修正を行います。
- この内訳ですが、
国内損保は、8 月公表対比で「自然災害増加」の影響を織り込むものの、異常危険準備金の取崩しやコロナ影響の改善、増収による既経過保険料の増加で打ち返し、+170 億円の上方修正を行います。
国内生保につきましても、外債の売却益やヘッジコストの減少を主因に、+60 億円の上方修正を行います。
海外保険は▲31 億円の下方修正となりますが、これは非連結の生保子会社株式の減損等▲104 億円が効いていますので、事業全体の基調としましては、計画通りと申し上げてよろしいかと思えます。
- 次に、株主還元の原因であります、修正純利益ですが、連結純利益から、異常危険準備金や、(先程ご説明いたしました)海外子会社株式の減損の影響などを控除し、8 月公表予想を+220 億円上方修正し、3,320 億円を見込んでおります。
- なお、5 ページには通期予想における新型コロナウイルスの影響を、7 ページには自然災害の発生状況を掲載していますので、後ほどご確認ください。

【資本政策】

- 最後に、ESR と株主還元について、ご説明いたします。
少し飛びますが、31 ページ、および「株主還元に係るニュースリリース」をご覧ください。
- 20 年 9 月末の ESR の水準は、上期利益の積み上がりや市場環境の回復により、資本水準の調整前で 165%となりました。この水準は、20 年 3 月末対比で、+12 ポイント上昇というレベルです。
- その中で、本日、資本水準の調整として 500 億円を発表いたしました。この結果、ESR は 163%となります。
- こうした考えに至った背景ですが、先ず 165%という水準は、当社のターゲットレンジの範囲内にありますので、事業投資や追加的リスクテイク、株主還元を柔軟に検討していく、といった当社の行動に変わりはありません。
- その中で、コロナの感染拡大による経済情勢、或いは市場環境の「先行きの不透明感」が、期初段階から改善していること、今年度は自然災害も過去 2~3 年と比べれば大きな影響とはならない見込みであること、この様な中、成長のための事業投資を積極的に実行していく方針に変わりはない訳ですが、今後の利益による資本蓄積も期待できることから、今回の資本水準の調整、という判断に至ったものです。
- なお、20 年度の普通配当ですが、年初計画を据え置き、中間は 1 株あたり 100 円、通期では 10 円増配となります「1 株あたり 200 円」と、9 期連続の増配を見込んでおります。
- 株主還元については、来週の Investor-Day で、詳しくご説明させていただきます。

【締め】

- 最後になりますが、ここ数年の自然災害、そして足元のコロナと、事業環境はチャレンジングではあります。
- その中で、当社が行っていかねばならないことは、実力、安定的にグループの「稼ぐ力」を高めていくこと、将来のグループ像、即ち「修正純利益で 5,000 億円超」、「修正 ROE で 12%程度」の達成確度を高めていくことに他なりません。
- 来週の **Investor-Day** でこの辺りを、しっかりとご説明させていただく予定ですが、当社と致しましては、今後も中長期的に安定性・収益性を高めていくことで、株主の皆さまの期待にお応えしていきたいと考えていますので、引き続きご支援よろしく申し上げます。
- 私からの説明は以上となります。

以 上